

## 第4回福島町まちづくり推進会議

開催日	平成24年2月7日（火） 開会午後6時～			
出席者（8名）	枝松 豊、金澤 富士子、管藤、光男、木村末正、常磐井 武典 中塚 徹朗、山名 連、山辺 篤			
欠席者	阿部 國雄、菊地 謹一、金谷 由美子、河原塚 利雄、木村 互哉 新山 敬司、平沼 竜平、松谷 剛			
	企画 G 参事	鳴海 清春	企画 G 総括主査	住吉 英之
	企画 G 主事	中塚 雅史		

（開会午後6時）

### ○事務局

皆さんどうもご苦労様です。今年は例年になく雪が多くて、雪かきで大変お疲れのところ、また、今小学校の方では、中学校も含めてですけれども大変インフルエンザが流行っておりますので、風邪に注意をしていただきたいなと思います。今日は、第4回目のまちづくり推進会議ということで、これまで2回ほど委員の中で色々と検討をしていただきましたけれども、当会の役割であります、ふるさと応援基金の活用について、今日は何とか町長に提言をできるまでの意見集約を会長の下でしていきたいと思っておりますので、よろしくご協力をお願いしたいと思います。このあとの進行については会長のほうからよろしく願います。

### ○会長

皆さんどうも足元の悪い中歩いて来られた方もいらっしゃると思いますので帰りは気をつけてお帰りください。インフルエンザは小学校が休校になっ

て、解除になりましたけれども、その子どもたちが家庭の中でだんだん伝わってお父さんが会社を休んだり、ちらほら聞こえておりますので、これから皆さん十分注意していきましょう。

今日は、今お話ありましたけれどもかなり貯まってきました、ある意味福島町を思う気持ちの、その宝物ですね、ふるさと応援基金というお金が、かなり貯まってきたということで、このタイミングで、皆さんで、一度議論してはいかがか、ということで今日、会議を設けることになっております。では、事務方のほうから説明をお願いいたします。

### ○事務局

それでは皆さんお集まりいただき、ありがとうございます。前回と前々回の2回これまで協議をしてきたんですけれども、その検討状況を振り返りながら今日の議題の方に入っていきたいと思っております。ページを開いて次第の2ページ目です。出てきた内容の部

分なんですけれども、これまで2回部会に分かれて委員のほうから、意見をいただきました。そのときの意見として中段に経済福祉部会ということで、大きく「食」の部分で【海も畑も育てるまちづくり】、「観光」という分野では【松前神楽などの観光資源の活用】ということで、次に総務教育部会のほうでは、「雇用」ということで【働く場所の確保】、二つ目として【医療費軽減対策と少子化対策、三つ目に「教育」で【学力の向上対策、学校への地球儀の設置】、「その他」の分類として【町民との交流の場の提供】ということで、意見をいただきました。その時のまとめとしまして、会長の方からも話があったんですけれども、福島町に思いがあって、ふるさと応援基金ということでやった部分がありましたので、まちづくりのほうへ活用する活きた使い方を望んでいるという部分で、それも含めてもう一度具体的な事業について議論を進めましょうということで、次のページをお願いします。

昨年10月18日に、このふるさと応援基金について再度部会に分かれて意見をいただきました。前回会議の部分を含めて、内容を掘り下げた部分とまた新たに出てきた意見ということで、意見をいただきました。経済福祉部会のほうからは、「観光」ということで【松前神楽の修理】と【近隣4町の観光に係る助成】という部分と、「雇用」の部分で【雇用の場の創出 - 観光アドバイザーの採用】というところと、「食」の部分で【食と産業の連

携強化】。総務教育部会で、流木の活用という話も出ていましたので、それも含めて【教育玩具】ということでもとめています。「観光」の部分で、【歴史的な背景】ということで、伊能忠敬の全国地図が始まった場所や殿様街道ウォークという歴史的資源が豊富なことからその部分での活用という意見も出ていました。「その他」の部分で【町の魅力を発信するネイチャーガイド等の人材育成への助成】ということと、【南北海道駅伝への助成】ということで、色々意見をいただいたんですけれども、その会議の場で意見の整理ということがなかなかできずに、時間になりましたので終了させていただきました。意見をもらっていく段階で膨らみすぎて整理が付かないという部分もありましたので、隣の4ページのほうで、本日はふるさと応援基金という部分を、今年度で1~2件程度整理をして、町長の方に答申をしましょうということで、意見を事務局で整理をして、ここには別表と書いているんですけれども、内容は今まで意見交換してきたものを整理した部分なので、表は特に付けていませんけれども、おおかた皆さんからの意見をまとめていくと、大きい行政でやらなければならない部分もありましたし、そういうものも含めて具体的な、どういふうに進めればという中身の意見もありましたので、その所はなかなか整理ができなかったんですけれども、事務局として2つ、意見をまとめた結果、記載している通り歴史的な

背景が豊富なことからその部分での活用という部分と、雇用の部分で観光を支える人材への活用ということで、事務局のほうで整理をさせていただいたんですけれども、この件について違うほうがいいということがあれば、もう一度出してもらいたいと思います。事務局の意見でよろしければそのまま進めていきたいと思いますが、一度委員さんの意見を伺いたいと思ひまして、お願いをしたいと思ひます。以上です。

#### ○会長

どうもありがとうございました。ということで、前回参加された方、色々この場で議論をしたのを思い出していると思ひますけれども、だいたい今事務局からまとめがありましたけれども、たくさん出た中で集約していくと二つに分かれるのではないかと。

一つは、観光分野。一つは、雇用分野ということで、そういった分野の中でこの基金を活用してはいかがか、という内容ですけれども、これについて委員の皆様、今言った二つにこだわることもないですけれども、他含めて、ご意見があれば言っていたきたいと思ひます。

#### ○委員

最終的にお金を出すとなれば、ここで言うように、完全に具体的なもので出さなければならぬですよね。これから絞り込まなければならぬわけですから。例えば、観光分野としては歴史的な背景が豊富なことからその部分での活用ということで、そうした

らそれは何と、具体的な名称をここできちっとしなければならぬですよね。こっちの2番目の方は、人材への活用ということは何かそういう観光を支える人材の活用となれば、これははっきりしています。人件費ですよね。

誰か臨時職員かパートを雇って近隣のことが詳しい人を半年なら半年雇って、その観光の事について色々ガイドとか。だけど、これは人材をやってもまちづくりのためにお金を出した人には何も目に当たらないんだよね、ものとしては何も出てこないんだよ。検討する為に人を雇いましたということだけだから。例えば、極端なことを言うと少し話しがそれますが、福島の中に青函トンネルが通っていますよね。2箇所国道と重なるところがあるんですよ。吉岡の228号線の1箇所と、三岳の1箇所が国道をまたいでいるわけですよ。それは何処の町もないんですよ。ここが、青函トンネルの真上ですよというところがあるわけですよ、福島町には。それは国道をまたいでいますから、極端なことを言うと国道の所にちょっと敷地を確保して、そこに青函トンネル直上点とか看板を立てて、そこに記念写真でも撮るようなスペースを作れば、例えば福島に帰ってきたら、ここがそうなんだとわかりますよね。なんか、目に見えるものの方がいいのではないかと。だから、今言ったように松前神楽なんかは福島の郷土の歴史的なものですから、これは札幌へ行っても何処へ行ってもお父さんの代から、非常に好評を

博して札幌の人達も見に来ていましたから、そういうものをまちづくりの中で一生懸命やっているんだということについては、こういうものにお金をだしても、それは皆さん納得するというわけですよ。だから、一環としてはいいんですよ。一生懸命やるために、検討をするために例えばパートで、時給で雇いましたと。それで、半年間雇いましたということでもいいんですけども、だけど結果何なのと、それをして見えるものは何なのと言われたときには、まだ検討最中ですよとなれば、どうもその辺が。

○会長

今、〇〇さんの考えというのは、この町内の町民向けというよりも、お金を出してくれた町外の多くの人でもありますから、そういった人達にも届く配慮を何かできないかということですよ。地図の上で見ればたしかに今、新幹線が来るのでそのルートが国道と重なるので、そこにそういった目印を立てるということは、この日本でそうそうできる場所はないですよ。青森ではありませんか？

○委員

青森はないです。青森はずっと国道沿いですから、クロスしないんです。

○会長

そういう意味では福島特有の資源だと。

○委員

それを福島から出た人も、青函トンネルに係わった人も何処の場所か分からないんですよ。だけど、三岳の

ある部分で、それはもう数字が出ていますから、JRに確かめればきちんと点がすぐ出てくるんですよ。そこを、ちょっと歩道を広げて砂利を敷いて3~4mくらいのスペースを作って、ここがトンネルの真上ですよという看板を立てれば、ここで写真がとれますよね。福島から出た人も、ここが青函トンネルの場所だったのか、それじゃあ来たついでに写真でも撮っていくかというような、そういうようなものの方が目に付いて、たいしてギスギスもしないし、いくらお金がかかるかと言ったら、大したものではないですよ。ちょっと舗装してそこに看板を立てればいいわけですから。

○会長

それは、ある意味まちづくり条例で私1発目をやりましたけれども、あーいった提案型ということでもかまいませんよね。

○委員

だから提案型にして、スポット的なものだから、毎年お金を出すようなものではないから、ふるさと応援基金のほうから出して施行するかという手もあるんですよ。

○会長

だから、基金のいい活用方法ということですけども。今のも素晴らしいと思います。ただ、今まで議論した中には今の意見はないですよ。だから、そういう意味では今までの流れを保ちつつ、●●さんが言うその素晴らしいアイデアですから、やっぱり我が町の宝という位置付けで、それはそれで、

実現する方法は考えなければいけないと思います。

#### ○委員

話がそれますけれども、5ページに今年度でまとめて、平成25年度の予算化と書いていますよね。24年度の予算化ではないんですね。

#### ○事務局

23年度内に今日の会議で意見をまとめて、その後の部分で町長へ答申しまして、ただ、予算自体はもう終わっていますので、来年度のほうの事業化へ向けて、25年度実施に向けて24年度内の部分で具体的な事業に付けていくというイメージで進めています。

#### ○事務局

事務的な流れだと思うんですけれども、我々が今考えているのはある程度このまちづくり推進会議で町長に報告をするわけですよね。町長はそれを受けて、今度町としての予算化を目指していくわけなので、それにはたぶん今提言をしたとしても町長が今度内部で考える時間がありますよね。半年くらいかけて今具体的なものが出てくれば、それに乗っかるだろうしある程度細かい詳細まではいかないけれども大枠でこういうものを使ってくれと言えば、それをどう具現化して事業に結びつけるかということを内部で検討する期間が今度半年くらいかかりますので、その期間を見込んでやるとやっぱり24年度の中では厳しいだろうと。そうすると、25年度の予算を目途にしていた方が、時間

的余裕もあるのかなという話ですね。皆さんから出たものを町長がいいと言ってすぐ予算化をするなら、それはそれでできることだけれども、たぶんなかなかそうはならないだろうなという思いですね。なので、出来れば早くという言葉を書いてもそれはいいと思うんですよ、報告の中でね。

#### ○委員

今言ったように、それこそ民の考えとしては、やっぱり半年くらい目途にやってほしいわけですよね。

#### ○事務局

そのこの所は我々事務局が書いていることは何も気にしなくていいですよ。うちらが一般的な今までのやり方で行くところだろうなという書き方をしているので、方向としては例えば報告書の中に我々の思いは早く実現してほしいんだということで、例えば24年中になんとか予算化してほしいという言葉を入れちゃえばいいですよ。そうすればそれを、やる・やらないは、町長の判断がありますけれども、そういう言葉は入れてもいいと思うんですよ。我々が事務的なことを考えると25年度くらいになるのかなというだけなので、ここはあまり気にしないでください。

#### ○会長

役所もそういうふうに積極的に考えるべきですよ。言われなくても。

#### ○委員

これ、今予算化しても何百万の世界でしょ。そうすれば、例えば建設費とか、よく福島の町民が言っています

けれども、冬だとかの時期になると小さい仕事の道路を直したり、小路を直したりするのはきっと予算上余ったから、使わなければならないからやっているのではないのかというような意見も出ているわけですよ。

そうすると、結局当初の計画に無いような所もやっているということだから、とすると、200万500万単位であれば、その年でもできるのではないかと我々は、浅い考えだけれども思うわけですよ。

#### ○事務局

やろうと思えばできますよ。あとは、町長が判断を踏み込むかどうかで。

#### ○委員

それともう一つ、議会の基本条例をもって議会の承認があるんだよね。

#### ○事務局

議会というか基本的には、基金を下ろす為には予算というか、議会の承認を通していかなければならないのでそのところで一回判断をあおぐということになりますので。もう一つさっきの4ページのやつで若干補足をさせていただきたいんですけども、たぶん皆さんが今まで議論をした中で先ほど事務局がまとめてこんな感じですよということを使った中で、一つに観光分野という分野分けをすると観光になるのかもしれないんですけども、我々の思いとしては旅に出た人も、地元に住る人も、ふるさとを引き継いでいってほしいと、守ってほしいのと引き継いでいってほしい、そういうものに対してお金を使って

ほしいということだと思うんですよ。それが延いては観光につながるのかもしれないけれども、最初から観光ありきではなくて、今やっている例えば祭り一つをとっても神楽一つでもそういったものを伝承する、また先ほど言ったように福島のその名称を例えばPRするための看板が今まで無かったらそういうものを旅に来た人、ふるさとに帰ってきた人に伝えるとかたぶんそういう一歩だと思うんですよ。そして二つ目は雇用分野という書き方をしているんですけども、自分がちょっと捉えているのは、雇用というよりは引き継ぐ人を育てていく為にお金を使ってほしいという意味じゃないのかなと思うんですよ。○会長

今、お話が出たところで思い当たるふしがありまして、私は実際殿様街道ウォークというものの主催者側にいるんですけども、今札幌とか函館の人がそれも中高年の人が多いですね、たくさん来ますよ。中には大学の先生が混ざっていたり、会社の経営者が混ざっていたり、色んな意味で今自然と歴史というのがブームになっています。今新幹線が来るという中で、福島はおそらく注目されてくる場所なんですね、ちょうどタイムリーに道新にもこの間出ました。全道版で。北海道の道百選という、今年道新が北海道の道を紹介するというんですね。その中に、まず30を選んだと、その30の中になんと福島町の殿様街道が選ばれているんですね。全道の中で。

道南からはあと、奥尻。函館、渡島、  
檜山、から二つ選ばれたうちの一つが  
福島だという位置付けで、非常に注目  
されているということなんです。さっ  
き〇〇さんという話も出ましたけれ  
ども、その殿様街道を引っ張ってい  
ている色々説明してくれている人が、  
ご高齢になってきて、やっぱり引き継  
ぐということが必ず出てくると思う  
んですよね。そのために、後継者を育  
てるというような必要性もあると。あ  
くまでもこれは一つの例ですけれど  
も、そういった意味で町の情報発信な  
り、その情報発信した先にはお金を下  
さった方々がいるということで、非常  
につながっていくということに対して  
価値のある使い方にはなるのかなと、  
経験談ではありますけれども、そう私  
は思っておりますので、今、事務局の  
説明を聞いて納得した次第でござい  
ます。

#### ○委員

〇〇さんがおっしゃる前に私も実  
はちょっと思ったんですけれども、今  
ボランティアガイドってありますよ  
ね、あれも実際、年にどれだけの方が  
この町内を案内しているかという話  
ですよ。結局、事務局がおっしゃっ  
たように、そういうところにお金をか  
けると、結局もう掛け捨てみたいな感  
じで消えていってしまうと思うん  
ですよ、ですから伊能忠敬ですとか隠  
れキリシタンですとか、そういったも  
ののつながって殿様街道ですとか、そ  
ういったものの後継者の育成、あとは  
もう少し看板を目立つように作って

もっとアピールするとか、観光を支え  
る人材への活用というのは、二つ目の  
これは仮に雇用となっていてはくれ  
ども、もう単純に考えると雇用の場を  
設けるといのは、今非現実的ですよ  
ね。なんか店を作ってそこに職員とし  
て雇うというようなのは、現実的に、  
それはちょっと考えにくい部分では  
あると思うので、むしろそういう町の  
歴史と自然を活かした、そういったも  
のを〇〇さんが一番最初におっしゃ  
っていましたよね。その雇用とかいう  
のは、町の予算組み中でやるべきこと  
だろうと。まさに、そういう感じだ  
と思うんですよ。だから、神楽とか殿  
様街道とか、神楽なんか結構表に出  
て来てはいますけれども、まだまだア  
ピールの仕方によっては殿様街道なん  
かも盛んになるのではないかなと思  
います。

#### ○会長

新幹線も来るというのは目に見え  
ているので、そういう人達はこの間、  
青森の役人の人が函館に来て講演を  
していきました。青森新幹線で青森は  
どれだけの効果があったか。ようは終  
点の駅ができると、必ず効果がある  
というデータを示していきました。ただ、  
それを持続させるのは地元の人達の  
努力が必要だということですよけれ  
ども、まず木古内にも函館にもそうい  
った多くの興味を持った新幹線にの  
って観光を目指してくる人達が必ず  
いるということですね。だから、そう  
いう人達を受け入れるために今4町で  
色んな仕組みを作らなきゃというこ

とをやっているようですけれども、すでに今福島町には、今言ったような資源が多々ありますので、この町は町で、今こういった寄付をしてくださる人の気持ちとつながりやすいような仕組みづくりというのはこういう場で新幹線がくるという中で、アピールはできるのではないかと思います。ですから、どうでしょうか皆さん、固定化してしまった方がいいのか、例えば神楽なら神楽の育成に使いなさいという一文を入れた方がいいのか、または今ここに提示されているような、ちょっとオブラートに包んだような表現で収めた方がいいのか、あとは町長さんなり、この町をどうしようかと、我々の意見をくんでこうやって事務方もいるので、そこでの段階で引き継いでいくのか、ということちょっと皆さんで検討をしていただければと思いますけれども。

#### ○委員

前からちょっと疑問に思っていたんですが、この観光の中に松前神楽、神楽というのは本質的には観光のためにあるのかなと、ないのかなという気がしているんですよ。分類としては、これは歴史、伝統とかそういうものの分野でその地域の固有の伝統文化ですよ、本来からすれば観光というのは来て見てもらうとか、お披露目するというのが観光なので、神楽というのはお披露目するためにあったのかなというような、神事のためにやるわけですよ。

#### ○会長

そのとおりだと思います。それで、それを皆で考えるわけですよ。本来あるべき姿でお見せするということが、それをずっと100年、200年の単位で持続させたいと願いますよね。そのときにやっぱり限界がみえるわけですよ。後継者不足。かならずこれは途絶えていくというふうに我々はみたんです。その場合にこれを支えていくためには、どういう仕組みが必要かということで、たまたま私なんかは、色々な皆さんの協力を得ながらですけれども、一般の人が見る神楽の場を作っていくわけですよ。それが、例えばかがり火コンサートであったり、蕎麦畑の上でやったり、皆でやっていることですけれども、その事によって逆に神楽を観光的な視点で捉えさせる事によって、神楽の持続をさせると。100年、200年逆に長く続かせるということを我々は今考えているわけですよ。黙ってその本来あるべき神事の空間で、それが行われていくと絶対これは持たないと思います。やはり新たな視点でそれを考えてあげないと、町の文化、歴史がやっぱりしぼんでいくのではないかなというのが今のやり方ですよ。

#### ○委員

わかりました。やっぱり、今の人は例えば神楽が主体で、歌手を呼んだり何かを呼んでと、神楽主体にするとやっぱり来ないですよ。だから、逆に言うと歌い手が来て、演奏が来て、土俵の上という神聖な場所でやるから、まず神楽でお払いをしてというふう



にして、両立をさせるという意図はわかるんですけども、このくくりからすれば、観光というくくりになるのかなと、本来的には。

#### ○会長

本来的に言えばならないですよ。したくないですよそれは。

#### ○委員

だけど、神楽だけじゃ全然あれですからそういうものとミックスさせて、神楽を逆に下においといて、来てみたら神楽がものすごかったというような認識を持ってあれしようというはらはわかるんですけども、文章のくくりとして観光の方に入るのかなというような気がします。

#### ○事務局

先ほども言ったんですけども、皆さんの思いはたぶん、ふるさとがいつまでもふるさとであってほしいということに使うという形だと思うんですよ。その中で、くくりはどうであれ、さっき◎◎さんが言うように歴史伝承があっているんだと思います。

ただ、僕はその観光と歴史伝承が何にもつながらないということではないと思うんですよ。具体的にNHKのテレビで広島県の神楽の番組がやっていたけれども、ああいうのを一つとってみても、地元の子どもたちなり、地元の人が、例えば町のほこりに思って元気にやる事によって、それを見に来る人っていると思うんですよ、だからそこは何もどっちから入るということは無くてもいいのかなという気はするんですよ。ただ、我々

は昔からあるものを守っていけるのかどうかということ望むのであれば、そういうのにお金を使った方がいいのかなという話ですよ。

#### ○委員

使うことにはいいんですけども、堅苦しい話なんだけれども、観光ですよとくくっという話をすると、ちょっと精神的にはやっぱり。例えば2番目の雇用分野と書いてありますけれども、これはちょっと今直すのでしょうか、歴史とか上のほうの歴史的な伝統とか何かを継承する為の人材への活用ということですよ。そうすると、観光のための活用じゃないわけですからそういう歴史的、伝統的なものを継承する為の人材の費用だから、堅苦しいことは言わないんですけども、もし出す人が観光でそれじゃあ何も全く違うイベントをやって人を集めるためにやるのなら、新しくやった方がいいのではないかという話になってしまふですよ。

#### ○会長

イベント的なものをイメージされるというのは本意ではないですから。言っている意味はわかります。きっとこの話が例えば別なステージに上がるとやっぱりそういう話が出ると思います。特にその神楽を愛してきた人達の中から出ると思います。ですから、そういう意味じゃこの一つの観光分野というくくりですよ。歴史的背景が豊富なことから、その部分で活用したいという辺りで収めておいてはいかがかと。ということも、ありま

すね。

○委員

そうすると、内容を見ると二つ目は観光を支えると書いてありますよね、雇用分野となっていますけれども、一つ目は観光分野ですから、観光を支える人材の育成だから、この一つ目の観光分野が例えばAとして、Bがあるんじゃないですか、例えば伝承を支える人材への活用ということになってしまいませんか。

○事務局

そうですね、今のいただいている意見をまとめると、一つ目と二つ目がくつつくようなイメージだと思うんです。皆さんの伝統とか歴史の部分を引き継いでいける人材確保、またその部分についての、ものを形で残すという部分で一区切りの方がすっきりするのかなというイメージは付きますね。この意見の部分では。

○事務局

例えば今言ったように、一番は歴史伝承の中でどういったものを伝えていけるのか、残していけるのか、それがたぶん皆さんは形があった方がいいよねという話ですよ。二番目は形にできないもの、ようは人でなければ伝えられないものというのはそういったのを育てていかなければならないよねというその二つでいいのではないのかなと思うんですよ。形というのは作ればそのまま残っていくからね、朽ちることもあるけれどもだけど、人というのは代々伝えていかなければ人というのは出来ないから、もの

はある程度、一回整理をしてしまえば錆びたり、朽ちていかない限りそれは永遠に残るものだからそういう分けでいいんじゃないでしょうか。流れとして。

今の意見の部分はこっちのほうで整理をする格好になるんですけども、一つ目は歴史的なところの物の部分でのイメージで、二つ目はそれを引き継ぐための人材の部分への利用という形で整理をして答申するという格好でよろしいでしょうか。

あと一つ、皆さんから意見をいただきたいなと思っているのが、その歴史伝承の中で、たぶん色々なやり方があるんだと思うんです、さっき言ったように看板を立てるという方法もあれば、例えば冊子を作って伝えていくというのもあるだろうし、それが例えば今福島にいる人もそうなんですけれども、外に向かって発信するのと今いる中で、自分的には子どもたちに何か伝えなければいけないのかなという思いもあるんですけども、その辺どうですか皆さん、意見として。今いる子供達がいかがいのかどうか分かりませんが、何となく外に行って自慢のような、発信できるようにしてあげられればいいのではないのかという気がしていますかね。

○委員

それを徹底的に教育委員会とか、何かでそれを取り上げて、わが町の教育の一つの方針だということで、小学校

の時から教え込んでいる学校も実際あるんですよ。その話は当然教育のほうとリンクしますから、僕は大賛成ですよ。逆にそこまで気がついていない教育委員会なんか、何をやっているんだという話になるかもしれないよ。

だから教育委員会あたりもどんどんこういうふるさと基金で、あれだったらこういうのを教育に使いたい、子どものために使うのであれば、誰も寄付した人達も文句はいいませんよ。町から優秀な子供が出ていくためには。それは誰も文句言わないので、様々なアイデアがあると思うんですよ。これを、僕らの意見もそうだけれども、教育委員会のほうからも、もう少し意見を出してほしいなと。

子どもの教育のために必要だからこの基金から何とか出せないものですかくらい、目ざとく目を付けて話が来ないのかなと。

#### ○事務局

そこの所は反対に、行政サイドから言えば、遠慮しているというか、変な話、一般的に予算の中で獲得すればいい話なので。

#### ○委員

松浦の七福神があるでしょ、今新しい会長が一生懸命になってやってくれていますけれども、ただやっぱり人材不足と金不足で、だから今◎◎委員が言うような形で、教育という一つの分野でやれば、今若いものが継げばその後にはしばらく大丈夫だから。何人も継いできてはいるんですけども、以前は松浦なら松浦だけの人間でやっ

ていたんだけど、それが今は他の町内からも入ってきているから。だから、その辺りやっていけば、人材も今までの地域ぐるみの二つの町内でやっているから、人材も豊富だといんだけど、まあ足りると。

だから、そういう部分で一番の難点というのがやっぱり経費ではないのかなと思うんですよ。太鼓とかああいうものも壊れるだろうし、それから七福神の道具も作り変えなければならぬとか、補修しなければならないというのがあるから。

#### ○委員

今言ったようなくくりで、個別にこれと決めるのではなくて、こういった書いている表現ですね、活用の仕方。

#### ○委員

一つ目のほうには松前神楽とか、横綱街道も素直に入ってくるのかなと思うんですよ。二つ目の方は人材への活用だけで謳っちゃうよりは、人材と物みみたいな人材など、などには物もは入ってくるような形にしたらどうかと。それで、何を言いたいかというと、福島町のパンフレットがあるんですけども、マップみみたいなものが無いような気がするんですよ。それで、例えば知内町では飲食店にマップが置いてあるんですよ。やっぱり置いてあると待っている時間それを見るんですよ。結構凄く綺麗にまとまっています、こういうのもあるんだなと思ったんですけども、福島町も色んな埋もれているものがたくさんあると思いますし、例えば巨木でもきつと何種

類かあると思うんですよね。大神宮の上に凄い木があるんですよ。

#### ○事務局

商工会青年部のときに、作ったものもあるんですよ。

#### ○委員

そういうマップを整理する事によって、新たな観光地というのが出ると思うんですよね。そうしたらその観光地に対して、案内板を作るとか、モニュメントをつくるとか、そういう部分も出てくると思いますから、関連して広がりが取れてくるのかなと。

#### ○委員

実は、それ全部作ったんですよ私。あるんです、今日持ってこようと思ったんです。それで作っているうちに今言ったように、国道の下を2箇所トンネルが通っているなど。そうしてここに今言ったようにやった方が、よその町にはないことだから。色々あるんですよ、やってみたら。福島町の観光の宣伝マップがあるんですけども、非常に表示の仕方が小さくて、虫眼鏡をかけないと見えないようなのがマップになっているんですよ、これじゃあちょっと宣伝効果がないなと思って、作ってあるんですけども、また新たにやるとなれば、お金がかかるんですよけれども。

#### ○委員

今○○委員が言うように国道でクロスする場所とか、例えば伊能忠敬みたいなそういうのを伊能忠敬だって我々すぐ側にいても知らなかったという部分もあるよ。だからそういうの

をきちんと整理すれば、青函トンネル記念館もメモリアルパークもある。それから、昔のこういう宗教的にはなるんだろうけれども、お不動さんがあって、北前船のまず第一便が停まった所が初めの頃は吉岡だった、だから結構、何々の国とかそういうのを寄付したものがあつたんですよ。だからそういう結局歴史的なものとか、現代のものとか町に点在する部分をぐるっと回るともまたひとつの手なんでしょうね。

#### ○委員

前回の会議でちょっと意見を出したんですけども、具体的に何があるといわれればそこまではいってなかったんですけども、将来的な事も踏まえて、雇用に繋がることに関するものに役立てたいと言ったんですけども、この資料をみると、さっきも誰かが言ったと思うんですけども、観光を支える人材への活用になってしまうんですよ。この書類をみると、雇用の分野では観光の人材というふうに私の受取り方なんですけれども、そういう広い分野でと私は前回の会議で言ったと思うんです。雇用は雇用なんですけれども、人材だけにかかわらず福島町で特産物も色々あるから、将来的に今何を商品にしてとか、ものづくりをしてとかという意見はそこまでは固まっていらないですけども。これを見ると人材への殿様ウォーキングの○○さん。今までは○○さんにお支払いする経費というのはボランティアなんですよ。

#### ○会長

ですから、スタートでも言っておりますけれども、このふるさと基金の性質といいますか、この町を豊かにしてくれという気持ちのおかげですよね。だから、そういう人達に伝えることを我々はここで議論しなきゃいけないということで、雇用も大事だから雇用も入っていますけれども、それは、観光という場での雇用という考え方でいこうというふうにして、今これを取りまとめていこうという事でやっております。それに対してのこういう意見もあるよということであればまた言うていただければいいと思います。でも、あれもこれもできないということも現実にありますので、その中で集約をさせていただきたいと思っております。

#### ○委員

例えば、その場所があるでしょ、左側の何が何処にあるというこの地図。これが小さすぎるんだわ、まずこれを1ページにするんです。こういうのがここに書いてありますけれども、まだまだたくさんあるんです。引っ張りあげなきゃならないものが。今言ったようにこの中に青函トンネルの線が入っているでしょ。そうすると国道228のところと三岳のところでもって、道路が交差していますでしょ、吉岡のところにも1箇所ありますでしょ。さっきこのことを言っているんですよ。福島に2箇所ある。こういうのを全部あれして、それから孵化場もあるし、孵化場がこれに入っていない。それから、森林公園とかこういうのはいいん

ですけれども、例えば、吉岡のトンネル駅、入っていませんでしょ。引っ張り出したら、たくさんあるんですよ。地図の中に写真なんかいららないんですよ、小さな地図で大きく引っ張りだして、そして、ここの地図の所に引っ張りだして丸を書いて、写真は例えばその森林公園ってありますでしょ、そうするとそこに森林公園の所に丸を付けるわけです、1とか2とか、それで写真の方に1の写真2の写真トンネル記念館なら記念館とまとめるわけですよ。あちこち飛ばさないで。大千軒岳も本当は大千軒岳の魅力というのは、頂上に上がったら360度パノラマなんですよ。室蘭も見えれば駒ヶ岳も見えれば、天気がよければ羊蹄山も見えるわけですよ。例えば、丸一日大千軒岳観光といって、そのところで①の写真をあれたときに360度大千軒岳の1の写真はこういうふうに見えるんですよというような、こういうふうなマップにしないと。

#### ○会長

会議の途中なものですから、あまり貴重な皆さんのお時間なので、まとめる所はまとめて。

#### ○委員

観光とか雇用の分野と書いてあるんですけれども、先ほどの神楽と書いてしまうとそっちのほうへ投資するような、これはようは神楽だとか、歴史的な文化だとかそういったものを大きくりというような意味で捉えていいんですよ。

## ○委員

例えばもう少し私たちの集まる回数を増やして、上と私達でこういう意見があったんだけど、ここはどうかなのかということをもっと話し合うと、これが歴史的だとか文化だとかというようなぼんやりしたものになってしまうと、結局町長も判断しづらいというか、名前が付いている方が、早くこれはいけますねとか、じゃあこれをもう少し深く話し合ってくださいというのをこの年度中にやれば、十分24年度に予算を計上できたのではないかなと。

## ○会長

でもそれは、さっき言いましたように、我々の熱意がそうさせないと、早くさせることができるということも言っていますので、それはこだわることはないと思います。結局、町長に対して示さなければならぬんですよ。

だから、皆さんに最終になりますけれども、私、会長として、落ち着けるところは落ち着けなければいけないという意味で、この二つの表現。一つ目の「観光分野」【歴史的な背景が豊富なことからその部分での活用】と、二つ目「雇用分野」【観光を支える人材などへの活用】と。とりあえずこの表現で、町長へ答申させていただきたいと思います。ただし、その具体的なものを決める段階になって、皆さんまた集まるということが可能であればいいのですけれども、もし不可能であれば、私、会長と副会長を入れてもら

って、やらせていただきたいなと、話を決めさせてもらいたいなと思っております。その決まりそうな段階で皆さんには進捗はお示しして、結論は出させてもらうというふうにもって行きたいと思っておりますけれども、どうでしょうか。ここで、全部やってしまうということも手ですけども、色々ここまで積み上げてきた背景がありますので、あとは一任させていただいて、報告させていただきたいと思っておりますがよろしいですか。では、そのようにさせていただきたいと思えます。

## ○委員

私が前から主張していたのは、とにかく学校に、小学校・中学校・高校まで地球儀をそれぞれ教室に一つずつ置くと。なんでそうかというと、グローバル化時代とあっていて、高校を出た生徒がどこの国がこの地球儀のどこにあるかなんて分からないわけですよ。

## ○委員

僕もわかりませんけれども。ただ、それをそんなに必要としているんですかね。必要な人というのはそこを知りたいからそこへ辿り着くのかもしれないですけども、地球儀が義務教育と考えればそうなのかもしれないですけども、必要な人はそこに辿り着くと思うんですよ。その自分の知りたい国を知るだろうし。

## ○委員

それは皆そうですよ。例えば数学が好きな人は、国語を一生懸命教えても

あんまり聞かないのと同じで、それはその通りですよ。けど、それが生徒に対して2割なり3割の効果があれば、十分だと思うんですよ。僕はそういう所から芽というのは出てくるのではないかなと思うんですよ。

○会長

地球儀は私も賛成ですよ。やっぱり世界をこの掌の上でもやっぱりこの臨場感というか、世界観が変わってくる。ただ、今この我々の中でやるということよりも、やっぱり教育のところで教育のサイドからやっていただきたい話だと思うんですよ。

○委員

一ついいですか、今学校にそういう地球儀だとかはないんですか？

○会長

何個かはあるでしょう。

○委員

あるけど、ソビエト時代の地球儀でしょ、今ロシアになっちゃって、その時代ですよ。

○委員

地球儀がいいかどうかというのは、私は不明ですけども、さっき言われていた、教育委員会のほうから町のよさをどんどん勉強するようというのか、広めていってもらえるようというのか、大いに賛成で結局はそっちのほうのものすごい今の段階だと、この基金の中でいうと、ウエイトを置いて、それが町内の歴史の文化だとか、それも含めて、観光事業というのがなりたっていくのではないかと思いますので、教育委員会のほうで推してもら

というのはすごくいい考えではないかなと思うんですけどもね。

○委員

ちなみにさっき、知内でみたものというのはこういうものですか？（パンフレット）

○委員

こんな感じですよ、2種類くらいあるんですよ。地図というのは例えば手書きの方が分かり易いので、そういう方がいいですね。

○委員

このサイズに収めるのが難しい人がいるんですよ。この折るタイプで大きいものが◎◎さんはいいいんですよ。

○会長

今この話が出ましたけれども、今皆さんの反響を聞いて一番びっくりするのは、新しくなっているということですよ。ようは町民が知らないうちにこういうものが更新されているというような。それ自体は反省していただいて、広報とかあるわけですから、欲しい町民だっているでしょう。

○委員

こういうのを横綱ビーチだとかの管理をしているときに、ポケットに入れといて、観光客が来た時にパッと渡すだとか、そういうような努力とかあればよかったんじゃないですかね。それこそ、黒米とかの注文できるものを一緒に入れたりとか、昆布でも注文ができるものを入れておくとか。

○会長

さっき言いましたように、私の考えを言わせてもらいましたけれども、そういう所で落ち着きさせていただくということで、よろしくお願ひします。

それでは今の議論は一回閉めまして、あとは次のテーマで事務方から説明があります。

#### ○事務局

今、検討していただいた部分でまとめましたので、後は検討事項の方を具体的な部分も事務局と会長、副会長を含めて内容の部分をつめるということで了承をいただきましたので、今年度の段階の部分、答申の部分をお願いした意見の内容でうちのほうで答申書をつくりまして、再度会長、副会長に確認をしていただいて、場合によっては皆さんのほうにも連絡という格好になります。そして、23年度内3月末までには、町長へ出す形で進めていきます。開いてもらって5ページの部分で④ということで、参考までにただ事務局のほうで意見をいただきましたけれども、次年度以降のこのふるさと応援基金は隣の6ページについてあります通り、ふるさとへの思いを寄付基金でいただいていた部分もありますので、今後も検討を続けていくような格好になるんですけれども、進め方として、会議の仕方などの部分が今年度のような形でよかったかどうかというのを参考に、こういうふうにした方がいいという意見があれば聞きたかったというのがあるんですけれども、進める具合で2回目の部分が結構意見を出し

ばなしで、なかなかまとめるのが難しかったという所もありましたので、ここは何回か会議を進めていかないと、うまい具合には進んでいかないと、思うんですけれども、何か気付いた点があれば。

#### ○会長

だからといって、いいアイデアもないからね。

#### ○事務局

特段、ここは継続しながら。

#### ○委員

何回か重ねているうちに委員の皆さんも考え方が絞れてくると思うんですよね。今何となく掴みづらいんです、この趣旨が。だから、色々な話になるのでこれがだんだん慣れてくると。今回例えば一回支出すると、やっぱりこういうことも良かったのではないかと、また反省の中から出てくるのではないのでしょうか。

だから24年度に出しましょうよ。

#### ○事務局

あと、最後にその他ということで今日の議題はもうないのでけれども、皆さん委員の推薦をいただいて、辞令を渡した時に、若干説明をしていましたけれども、別に動いている町内の若い人たちで会議を開いていまして、福島町に必要なものというところで、これがいいよねという形で意見を拾う場を設けていました。これまで、4回会議をやってきまして、ある程度意見もまとまって、提言書という格好で整理がつきまして、2月末にまちづくり推進委員さんとその町民フォーラム



の参加者の方で一度会議を開こうという格好で考えていました。それで、その会議の部分の内容なんですけれども、若い人たちが出した意見を、具体的な物もあれば、なかなか見えない部分もあるんですけれども、若い人達でこういうふうに考えましたというものを報告しますので、その場に来ていただいて意見交換をして、24年度からその若い人たちから出てきた意見をまちづくり推進会議のほうにもってきて、具体的にどういうふうな部分で事業化するかと、そこのやり取りは事務局のほうで単純に大雑把なイメージだけをまちづくり推進会議のほうへぶつけてきてもなかなか進めるのが難しいというところもあるので、そこは整理をしますけれども、そういう部分で報告会をさせていただきますので、そのときにはご案内しますので、極力出て来ていただければ助かるなということでのご連絡です。以上です。

○委員

若い人達は、出席率はいいんですか？

○委員

これまで、大きい部分で68名いたんです、ボランティアで出ますと言ってくれた方が役場の職員も入れて、68名だったんですけれども、比較的平均すれば、42～3名程度は毎回福祉センターのほうで会議をしています。

町内の方は20代～40代で、役場の職員が35歳以下ということで集まってもらっていました。

○委員

いつ発足したんですか。

○事務局

会議自体は9月からやって1ヶ月に1回ずつやっています。

今回の部分も最後の会議の部分であらかた報告しましたということで、町のほうでも別にパンフを作っているというふうな検討をして、こういう項目で町の方にといのを一枚作ろうと思っていましたので、それで町内の人にはご報告というように考えていました。

○委員

ちょっと趣旨は違うんだろうけれども、高校生もやっていますよね。全部ある程度大きくりにしないといけないということですよ、年代別だけで終わらせるわけにはいかないだろうから。高校生は高校生の思いがいっぱいあったみたいですから。

○事務局

それぞれ年代ごとに思いがあるし、ただ、思いだけではなかなか制作までつながらないものがあるものですから、考えは考えでぶつけてもらって大変よかったかなと思うんですよ。高校生は高校生なりに今の自分の考えの中で提言まではいかないけれども、こんなのがあればいいねという感じでやっていただいて、若い人は若い人でまた、もう少し社会に出てからの経験も踏まえて色々意見をいただいて、ある程度班ごとにそれを整理して今、まとめてもらっているんですよ。ただやっぱりそれだけではなかなか具体

的なもの、本当にこれが福島でできるのかとか、そういったことを考えていくとなかなか厳しいものもちょこちょこあったりもします。それはそれで僕はいいのではないかと考えているんですよね。町として、それを今度具体的な政策に結び付けていくにはもう少し時間をかけていかなければならないかなということ、できればさっき事務局から言ったように若い人たちが考えたものを、まずまちづくり推進会議のほうにぶつけるかたちか、引き継ぐ形でまず出していただいて、自分としてはまた一年をかけてまちづくり推進会議の中でそういった計画書をまとめあげられればという思いがしていましたので、その引継ぎ作業をできれば次回ちょっとやってみたいなと、だからその中で来年のやり方がどういうのがいいのかはまた色々与会長さんとかと相談しながらやろうかなと思っていますけれども、また色んな形で若い人をお願いをしているのは、言いつばなしじゃ駄目ですなという話はしているんですね。やっぱり言った以上自分達が福島に今現実的に住んでいるわけだから、自分達として何ができるの、ということをお聞きかけようかなと思っていますよ。自分でやれるものってあるでしょうと。ただあればいいね、これがいいね、あれがいいねで終わって自分が何も行動しないのであればどうなのという話を機会があるごとに話をしているので、できればそれはそっちのほうで、若い人達は今度自分達で小さ

いことでもいいから何ができるんだろうねということできればいいなと思っていますよね。

こっちのほうでは反対にもう少し高いところで、若い人が考えたものの中でこれはいけるよねとか、そういったものをある程度計画にまとめあげられればなという思いはしていますので、ぜひまたちょっと忙しくなるかもしれませんが、協力をしていただきたいなと思います。最終的に自分が狙っているのは、総合開発計画って皆さんご存知だと思うんですけども、町の骨格の計画なんですけれども、今その計画にのらなければ、ほとんど町の予算って付かないような感じになっているんです。それがちょうど今26年までの計画になって、27年から新しいのがスタートするんですよね。ちょうど、24年からいよいよその作業をできればしていきたいなという思いがあって、結果的に今やろうとしている延長線にそれがあればいいのかなと思っていますよね。今までは、どっちかという町が出したものを開発審議会で何となく追認というか、いいんじゃないのという感じで了承だけ取っていた帰来があるんですね。今自分達のほうで、事務方で考えているのは、できればさっき◎◎さんが言ったように、議論をしていただいて積み上げていければなという思いがしているんですよね。まずその中から、ものを作っていった計画書に持っていった審議会に図っていくという形が理想的ではないのかなとずっと

思っているのをそれを手間でもやってみたいなという思いがしていますので、それを出来ればまちづくり推進会議の方にどういう形でなるか、これがたぶんこのメンバーだけではすまないと思うので、もう少し広げてという形にはなるんでしょうけれども、色々24年度はありますので、また懲りずに出席をしていただければと思います。

#### ○会長

いい考えだと思いますけれども、私もこういった町づくりの会議に皆さんそうだと思いますけれども、もう何十年とかいう単位で参加していますよ。それで、そのときに貴重な時間を割いて議論した文言というのはどうなったのかと、どう引き継がれているのかと、一番興味のあるものなんですけれども、今言うようにまた更に新たに意見を集めていくわけけれども、だから今まで積み上げたものと合体していく、膨らましていくというようなことがあってしかるべきだと思うんですよ。何百万とかけて東京の先生を呼んだりしているわけだから。素晴らしいお知恵を頂戴してはいるんですけども、お金を出している行政が受けてないというこれはどういうことなんだというこれは常に考えています。

#### ○委員

普通はこういうものは計画を立てたら実行したか、しないか、それから実行したものが果たして効果があったのか、ないのかとか色んなそういう

形のものが本当は必要なのにね。

#### ○会長

そういうふうになんか新しいことをやろうとするのは、素晴らしいと思うんだけど、ものすごい徒労感があるわけですよ。何十回も同じ経験をしていると、また垂れ流しをやられて、そろそろ馬鹿らしくなってくるんですよ。

それでは、そろそろ閉めますので。お帰りはお気をつけください。ありがとうございました。